



この町で、この地で笑って老いたい ~そのために今すべきこと~

【まち協だより】

令和7年3月号

電話(FAX) 82-0933

発行:山上まちづくりの会事務局

【部員とスタッフ大募集：山上まちづくりの会】

山上まちづくりの会では令和7年度の部員さんを募集します。4月以降になっても途中入部もできます。山上では地域の皆さんで集まり山上まちづくりの会を作ってから20年になります。今年も無理せず事業に取り組むしたいと思います。コロナ渦前まで、実行委員会を作り自治会で役割を決めて取り組んできた盆のイベントなども無理のないやり方で継続していければと思います。

●合同事業

今年度も後期高齢者の訪問活動(誕生日お祝い栗饅頭プレゼント・日南あんしんキットの確認更新)にも取り組みたいと考えています。

●住民学習部

PTA と連携して小中学生と保護者の交流会をしたり、集落支援員と協力して栗饅頭作り教室をしたり、講師をお願いして寄せ植え作り教室をしたりします。一緒にチャレンジを楽しみましょう。



●地域振興部

ホテルが乱舞するような自然を残せるよう環境保護活動をしています。令和7年度のホテルおもてなし期間は6月27日~7月9日です。ボランティアスタッフで毎年事業参加していただきありがとうございます。今年もみんなで、日南町の山上のすばらしさを全国発信しましょう。



●支え愛部

自治会長さんや民生委員さん各自治会の自衛消防の皆さんと連携して、特に災害時に安全でいられるように活動します。安心安全な山上地域作りをめざし、無理なく継続できる活動をします。具体的な活動内容はこれから話し合います。



【後期高齢者 誕生日のお祝い栗饅頭訪問スタートします】

令和6年は敬老の日の週にお祝いの栗饅頭をお届けしましたが、令和7年は誕生日の月に(12回に分けて)お届けします。日時は決まっていますが、夜の山上地域放送(広報山上)などで告知します。

【令和7年度山上地域の日南町農業委員と農地利用最適化推進委員の紹介】

農業委員に坪倉完洋さん、農地利用最適化推進委員に坪倉幹也さんと妹尾重寿さんが就任されました。

【今後の予定】

●狂犬病予防接種 4月9日(水)13:20~13:30 山上地域振興センター玄関周辺

文部大臣選奨せんしょうを受ける 15

広島から帰って、村の教育のために夜も昼もなくただ一筋に取り組んでから、五年の年月がたちました。世の中は明治から大正へとかわっていきました。

昔は二月二十一日は紀元節といって、日本の国の誕生日として祝日になっていました。今の建国記念の日です。このよい日に、岩雄は「文部大臣選奨」という、教育者としての最高の賞を受けることになりました。大正三年、数え年の四十一歳の時のことです。表彰状は県庁で知事さんから手渡されることになりました。

この頃になると、かなり洋服がゆきわたって、お祝いの時など燕尾服えんびふくと呼ばれる今のモーニングコートを着るようになっていきました。岩雄はモーニングコートを持っていまませんでした。なんとかして作らなければと心配するマス(岩雄の妻)を押し止めて、岩雄は、先祖代々の紋つきの着物に、広島高等師範学校から帰ってくる時にもらった仙台平せんだいひらの袴はかまをつけて出かけていきました。

ちょうど折から雪が降って、袴の下にはゴム長靴といういで立ちでしたので、県庁の玄

関前での記念写真は、モーニングコートの知事、フロックコートの内務部長、金モールの服の警察部長の中になんともいえない格好で並ぶことになりました。しかし、岩雄はもともと服装などいっこうに気にしませんでした。

そのあとで、母校である師範学校で記念講演会がありました。教育者として歩んできた半生の道と、信念を、やや場違いの感じのする和服姿で熱心に話すと、また雪の中を山上へと帰ってきました。家に帰りつくと、両親と妻のマスの前にきちんと座って、「私が今日あるのは、すべて、おじいさんをはじめ、皆さんのおかげです。この際、改めてお礼をいいます。」と頭をさげました。両親は、「よくもまあ、あの岩雄が。」と、表彰を受けて、さらにひとまわり大きくなって見える岩雄を、ぐずだったころの少年時代を思い出して、目を細めるのでした。

後になって、県庁玄関前での記念写真の時の服装のことが、どこからともなく山上小学校の卒業生の耳に入り、村では岩雄の受賞のお祝いの会よりも、フロックコートを贈ることにしようという相談ができました。そして、山高帽、フロックコート、式靴、それに金時計までそえて贈呈を受けることになりました。岩雄はこのお礼に、おくられた式服を身につけた立ち姿を写真にとり、

あら恥はずかし 若木痛いためし藤老木ふじろうぼく
の一句をそえて、絵葉書にして送っています。

若木とは教え子たち、藤老木とは自分のこと。教え子たちに式服の心配をかけたことをすまないと思つて作った句です。服装など少しも気にならない岩雄も、教え子たちに気をつかわせたことについては、心が痛んだのでしよう。

